

営農技術情報

一畑作（春まき小麦③）一

令和元年 5月27日発行

上川農業改良普及センター名寄支所 TEL01654-2-4524

JA道北なよろ TEL01655-3-2521

JA道北なよろ営農センター TEL01654-3-4307

～今後の栽培管理について～

1 生育経過

生育は平年並みで推移しています。まもなく幼穂形成期を迎えますが、今後は6月上旬にかけて高温が予想されていることから、生育は早まるものと思われます。

＜本年および平年の生育状況＞

	出芽期	幼穂形成期	止葉期	出穂始	出穂期	出穂揃
本年	5/9					
平年	5/10	5/31	6/14	6/21	6/23	6/26
遅速	早1日					

2 追肥および倒伏軽減剤の使用について

追肥を行なう場合、止葉期以降は「遅れ穂」の発生を助長しますので、6月上旬までに実施しましょう。また、草丈が伸長する時期とも重なりますので、追肥を行う場合は、倒伏軽減剤との併用をご検討下さい。

【倒伏軽減剤の使用例】 資材例（登録内容は R1.5.22 現在）

資材名	使用時期	回数	10a 使用量	10a 散布水量
サイコセルPRO	6 葉期前後 (草丈 30～40cm)	1 回	150ml	100 リットル
カルタイムフロアブル	止葉期～出穂始期	1 回	150ml	100 リットル
エスレル10	止葉期	1 回	200～333ml	100 リットル
	出穂始期		100～200ml	

3 病害虫防除について

(1) ムギキモグリバエ

は種の遅いほ場ほど加害期間が長くなります。4月は種のは場では、4.5～6葉期、5月上旬は種では3～6葉期にかけて防除を実施しましょう。

【防除薬剤例】（登録内容はR1.5.22現在）

薬剤名	使用倍率	使用基準	
		時期	回数
スミチオン乳剤	1,000倍	収穫7日前まで	1回以内
エルサン乳剤	1,000倍	収穫7日前まで	4回以内

(2) 赤さび病・うどんこ病

5月中旬以降、高温少雨で推移しており、赤さび病が発生しやすい状況です。発生が見られるほ場では、防除を行いましょう。

【赤さび病・うどんこ病の防除農薬例】（登録内容はR1.5.22現在）

薬剤名	使用倍率	使用基準	
		時期	回数
チルト乳剤25	2000～3000倍	収穫3日前まで	3回以内